

れいわ ねんど あおもりしそうがいしやそうだんしえんじぎょうかつどうほうこく
令和6年度 青森市障害者相談支援事業活動報告
(中央、やましろ、八甲、すばる、ほたる)

れいわ ねん ど あおもり ししょう がい しゃそ だんし えんじ ぎょうかつ どう ほう こく そう かつ
令和6年度青森市障害者相談支援事業活動報告(総括)

1 青森中央

(単位：件)

じつ 実績	れいわ ねんど 令和5年度 じぎょうしょぶん 事業所分	れいわ ねんど 令和6年度 じぎょうしょぶん 事業所分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分
①相談件数	1,307	798	△ 509	329
②支援件数	1,304	794	△ 510	325

(単位：%、ポイント)

じこひょうか 自己評価	れいわ ねんど 令和5年度 いたくぶん 委託分	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)
①福祉サービス利用支援	80	71	△ 9
②社会資源利用支援	75	69	△ 6
③社会生活力支援	75	75	0
④権利擁護支援	75	75	0
⑤専門機関連携	75	75	0
⑥その他	50	50	0

2 やましろ

(単位：件)

じつ 実績	れいわ ねんど 令和5年度 じぎょうしょぶん 事業所分	れいわ ねんど 令和6年度 じぎょうしょぶん 事業所分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分
①相談件数	4,851	4,682	△ 169	1,701
②支援件数	5,713	5,611	△ 102	1,830

(単位：%、ポイント)

じこひょうか 自己評価	れいわ ねんど 令和5年度 いたくぶん 委託分	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)
①福祉サービス利用支援	84	67	△ 17
②社会資源利用支援	82	63	△ 19
③社会生活力支援	75	84	9
④権利擁護支援	75	75	0
⑤専門機関連携	100	100	0
⑥その他	75	50	△ 25

3 八甲

(単位：件)

じつ 実績	れいわ ねんど 令和5年度 じぎょうしょぶん 事業所分	れいわ ねんど 令和6年度 じぎょうしょぶん 事業所分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分
①相談件数	5,173	5,620	447	2,701
②支援件数	5,173	5,621	448	2,702

(単位：%、ポイント)

じこひょうか 自己評価	れいわ ねんど 令和5年度 いたくぶん 委託分	れいわ ねんど 令和6年度 いたくぶん 委託分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)
①福祉サービス利用支援	75	55	△ 20
②社会資源利用支援	69	63	△ 6
③社会生活力支援	75	67	△ 8
④権利擁護支援	75	75	0
⑤専門機関連携	75	75	0
⑥その他	50	50	0

4 すばる

じつ 実績	れいわ 令和 5 年度 じぎょう 事業所分	れいわ 令和 6 年度 じぎょう 事業所分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)	たんい (単位：件)
				れいわ 令和 6 年度 いたくぶん 委託分
①相談件数	14,352	12,862	△ 1,490	2,229
②支援件数	14,351	12,861	△ 1,490	2,229

(単位：%、ポイント)

じこ 自己評価	れいわ 令和 5 年度 いたくぶん 委託分	れいわ 令和 6 年度 いたくぶん 委託分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)
①福祉サービス利用支援	75	59	△ 16
②社会資源利用支援	57	57	0
③社会生活力支援	75	67	△ 8
④権利擁護支援	75	50	△ 25
⑤専門機関連携	75	75	0
⑥その他	75	50	△ 25

5 ほたる

じつ 実績	れいわ 令和 5 年度 じぎょう 事業所分	れいわ 令和 6 年度 じぎょう 事業所分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)	たんい (単位：件)
				れいわ 令和 6 年度 いたくぶん 委託分
①相談件数	1,385	961	△ 424	237
②支援件数	1,383	960	△ 423	235

(単位：%、ポイント)

じこ 自己評価	れいわ 令和 5 年度 いたくぶん 委託分	れいわ 令和 6 年度 いたくぶん 委託分	ぞうげん 増減 (R 6 - R 5)
①福祉サービス利用支援	55	55	0
②社会資源利用支援	63	50	△ 13
③社会生活力支援	67	67	0
④権利擁護支援	75	75	0
⑤専門機関連携	75	75	0
⑥その他	50	75	25

※自己評価は、各項目の合計点数に対する自己評価の点数が占める割合で、小数点第 1 以下を切り上げ

れいわねんど あおもりしそうがいしゃどうしえんじぎょう
令和6年度 青森市障害者相談支援事業
 かつどうほうこく
活動報告

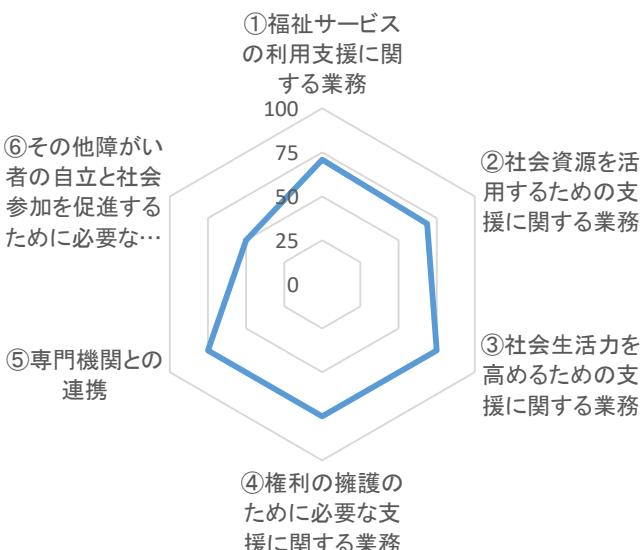
じぎょうしょめいしていそだんしえんじぎょうしょあおもりちゅうお
事業所名: 指定相談支援事業所青森中央

I 令和6年度実績

①相談件数									
ほうもん 訪問	らいしょ 来所	どうこう 同行	でんわ 電話	でんし 電子メール	FAX	こべつしえんかいぎ 個別支援会議	かんけいきかん 関係機関	その他	けい 計
46	26	80	143	0	2	5	19	8	329
②支援内容									
ふくしりょうとうかんしえん 福祉サービスの利用等に関する支援	108	きんせんかんり 金銭管理							3
じょうひょうじょうりかいかんしえん 障がいや病状の理解に関する支援	9	しょるいかかたせつめい 書類の書き方の説明							0
ふくやくかんり 服薬管理	0	だいひつ代筆							0
じゆしんえんじょ 受診援助	54	ほかせいかつきじゅつ その他の生活技術に関する支援							2
けんこうかんり 健康管理	5	かんしえん 就労に関する支援							7
ほかせいかついりょうかんしえん その他の生活と医療に関する支援	5	しゃかいさんかよかかつどう 社会参加・余暇活動に関する支援							0
ふあんかいじょうじょううちょあんていかんしえん 不安の解消・情緒安定に関する支援	72	けんりようご 権利擁護に関する支援							0
ほいくきょういくかんしえん 保育・教育に関する支援	1	きやくたいかんけい 虐待関係に関する支援							0
かぞくかんけいにんげんかんけいかんしえん 家族関係・人間関係に関する支援	1	じゅうくかんけい 住宅関係に関する支援							4
かけいけいざいかんしえん 家計・経済に関する支援	2	たその他							52
相談者数(実人員)									
うち、身体障がい									
うち、知的障がい									
うち、精神障がい									
うち、その他									

II 令和6年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



R6年度に機能強化として取り組んだ内容									
・障害福祉サービスにつながらないケースについて、訪問や来所などの機会をつくり、必要に応じた電話対応や同行等、継続支援を行った。	ほうもん								
・特定相談支援事業所からの相談に応じ、ケース支援に対する助言や社会資源の情報提供等を引き続き行った。	しえん								
・サービス利用の意向があるケースやサービス利用に繋がりそうな相談については状況や本人のニーズを聴取した上で特定相談支援事業所へ担当依頼を継続的に行った。	うえ								
・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの障がいのある方のケース相談を受けたり、障害福祉サービスから介護保険の移行、介護保険から障害福祉サービスへの移行等で相互に相談・連携を行った。	しょうがいふくし								
・親子はぐくみプラザや保健所、ハローワーク、法テラス等の関係機関との連携を図り、支援を行った。	とう								

III 令和6年度実績及び自己評価、並びに前年度設定した活動目標に関する全体評価

【令和6年度活動目標】

- ①相談支援専門員の人員確保について法人の協力を得ていく。
- ②特定相談支援事業所との連携をより深め、ケース引継ぎや共同しての支援等をスムーズに行える体制を構築・維持していく。

①法人事務局に依頼し、継続的な求人を行っている他、法人内で相談支援専門員として従事できる人材について検討しているが、異動可能な職員の確保には至っていない。

②圏域会議の継続開催により、特定相談支援事業所との連携が図りやすくなっており、受けた新規相談について計画相談が必要な場合は特定相談支援事業所へ担当依頼を行い、状況に応じてインテーク・アセスメント時に同行・共同しスムーズに移行できるようになっている。

IV 自己評価に基づく改善点と改善方法について

- ・人員確保については各部署の状況などから現在まで法人内での確保ができていない。関連法人含めての検討を進めていく。
- ・サービスに繋がっていないが継続的に関わっているケースについて、個別支援計画作成の基準が明確に定まっていなかったため、作成に至っていないかった為、今後は継続的かつ計画的な関りを要するケースについての基準を設け、個別支援計画作成を行っていく。
- ・圏域会議内での事例検討等で地域課題について話題に上がるが増えており、個別ケースへのアウトリーチを行いながら、社会資源への繋ぎ、地域課題の把握等を継続していく。
- ・社会参加の促進については、相談者からの求めに応じ情報提供してきたがその件数は少ない。地域活動支援センターを中心に行われているピア活動等、本人の状況を勘案し必要と思われる情報提供を行っていく。

V 令和7年度の活動目標

- ・圏域内の特定相談支援事業所との協力・連携を継続し、圏域以外の特定相談支援事業所との連携も深め、ケース引継ぎや共同しての支援等をスムーズに行える体制を構築・維持していく。
- ・ケースの状況に応じ個別支援計画の作成を行っていく。
- ・相談支援専門員の人員確保について、相談支援員の活用も含め引き続き法人との検討を継続していく。

れいわねんど あおもりしちょうがいしゃそうだんしえんじぎょう
令和6年度 青森市障害者相談支援事業
 かつどうほうこく
活動報告

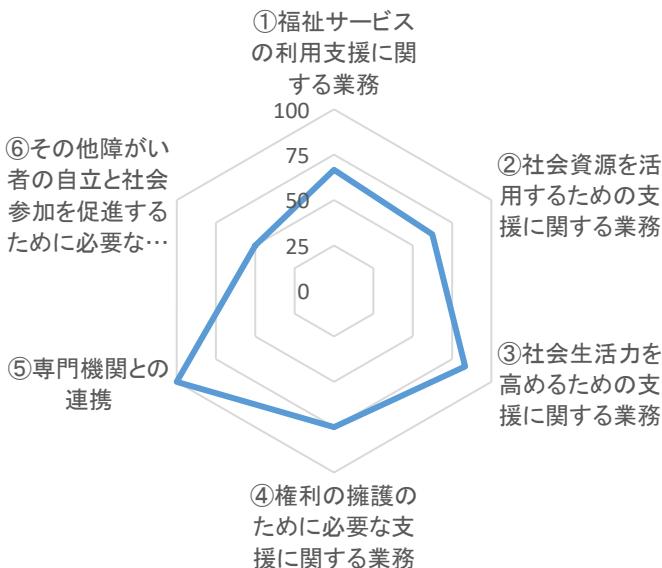
じぎょうしょめい
事業所名:やましろ

I 令和6年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
117	13	89	907	15	1	12	511	36	1,701
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援				665	金銭管理				26
障がいや病状の理解に関する支援				12	書類の書き方の説明				0
服薬管理				0	代筆				6
受診援助				17	その他の生活技術に関する支援				205
健康管理				2	就労に関する支援				81
その他の生活と医療に関する支援				178	社会参加・余暇活動に関する支援				8
不安の解消・情緒安定に関する支援				382	権利擁護に関する支援				2
保育・教育に関する支援				3	虐待関係に関する支援				0
家族関係・人間関係に関する支援				98	住宅関係に関する支援				43
家計・経済に関する支援				90	た その他				12
					相談者数(実人員)				84 人
					うち、身体障がい				12 人
					うち、知的障がい				17 人
					うち、精神障がい				40 人
					うち、その他				20 人

II 令和6年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



R6年度に機能強化として取り組んだ内容

- 福祉サービスの利用支援に関する業務
 障害福祉サービス利用の意向が不明な方、退院や居住支援で居住先が決まっていない方等に対して支援を行い、サービス利用や居住先の見通しがつくタイミングで特定相談支援事業所に引継ぎを行った。
- 社会生活力を高めるための支援に関する業務
 受診同行、金銭管理支援、住居・住宅に関する支援、就労に関する支援等、直接的な支援も含めて支援を行った。
- 専門機関との連携
 ケースに応じて、様々な機関と連携し、支援を行った。

Ⅲ 令和6年度実績及び自己評価、並びに前年度設定した活動目標に関する全体評価

【令和6年度活動目標】

①地域の民生委員とのつながり(協議の機会)

②委託相談利用者への計画作成

社会資源を利用するための支援に関する業務において、各ケースを通して関係機関とのネットワークの構築や連携を行うが、地域課題の整理や新たな社会資源の創出がなかなかできていない。

その他障がい者の自立と社会参加を促進するために必要な支援について、ピアカウンセリングのコーディネートや障害者相談員などと連携する機会がない。青森県ピアカウンセリング養成研修を受講した。

①面識のある元民生委員に連絡をとり、後潟地区民生員・児童委員協議会へ参加するための調整を依頼した。

②計画を作成した利用者に対し、定期的に支援を継続しているが、モニタリング時期を設定しておらず、計画書の見直しができていなかった。また他の利用者に対する計画作成ができていない。

IV 自己評価に基づく改善点と改善方法について

・個別ケース等を通して、地域課題と思われるなどを把握していく。

・ピアの活動や交流会等に参加し、希望するピア活動の検討や支援を行う。

・地域の障害者相談支援員と繋がり、情報交換等を実施する。

・後潟地区民生委員・児童委員協議会へ連絡し、定例会等に参加させてもらい、当事業所の説明を行う。

・計画作成した利用者の計画見直しを行い、モニタリング時期の設定や状況に変化があった場合の見直しをする。継続的に支援が必要利用者に対し、計画作成を行う。

V 令和7年度の活動目標

①地域民生委員との繋がり。定例会等への参加。

②障害者相談員との繋がり。情報交換等。

③計画作成と計画の見直し。

れいわねんど あおもりしちょうがいしゃそうdanしえんじぎょう
令和6年度 青森市障害者相談支援事業
活動報告

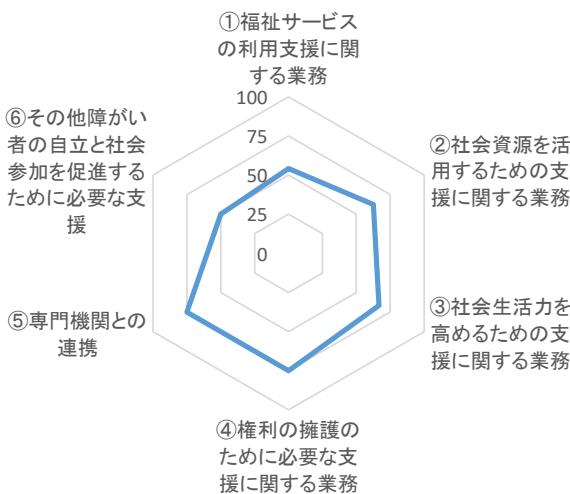
じぎょうしめいち いきかつどうしえん はっこう
事業所名:地域活動支援センター八甲

I れいわねんどじっせき
令和6年度実績

①相談件数									
訪問	らいしょ 来所	どうこう 同行	でんわ 電話	でんし 電子メール	FAX	こべつ 個別 支援会議	かんけい 関係機関	そのた 他	けい 計
272	726	125	722	78	0	17	754	7	2,701
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援	りょうとうかん 891	きんせんかんり 金錢管理	695						
障がいや病状の理解に関する支援	ひょうじょうりかい 38	しょるいかかたせつめい 書類の書き方の説明	1						
服薬管理	ふくやくかんり 0	だいひつ代筆	0						
受診援助	じゅうしんじょ 54	ほかせいかつきじゅつ 他の生活技術に関する支援	81						
健康管理	けんこうかんり 4	しゅうろうかん 就労に関する支援	8						
その他の生活と医療に関する支援	ほかせいかつ 550	しゃかいさんかよかかつどう 社会参加・余暇活動に関する支援	8						
不安の解消・情緒安定に関する支援	ふあんかいじょうじょううちよあんてい 208	けんりようこかん 権利擁護に関する支援	0						
保育・教育に関する支援	ほいくきょういく 0	きやくしわんかんけい 虐待関係に関する支援	5						
家族関係・人間関係に関する支援	かぞくかんけい 28	じゅうらくかんけい 住宅関係に関する支援	48						
家計・経済に関する支援	かいけい 54	たその他 その他	29						
相談者数(実人員)									
うち、身体障がい									
うち、知的障がい									
うち、精神障がい									
うち、その他									

II れいわねんどとくにたいじこひょうか
令和6年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



R6年度に機能強化として取り組んだ内容
○相談があった際には、まず迅速に対応する様心掛け、関係機関への情報収集や訪問、面談を行いながら課題の把握に努めた。また必要に応じて、地域活動支援センターの催しについても紹介し、社会参加を支援したり、参加して頂く中で新規に相談窓口に繋がる利用者様も複数人いた。
○虐待が疑われるケースや、親亡き後のケースなど緊急介入が必要な場合は、特に迅速な対応を心掛けた。基幹相談支援センターや関係機関と連携して必要な福祉サービスに繋げる等の支援を行った。
○障害福祉サービスに繋がらないケースも多いが、様々な生活のしづらさを多く抱えている為、定期的な訪問や連絡を行なながら生活状況の確認や支援を行う様に努めた。しかし、そういうケースが増えていく中で、こまめな関わりが難しくなっている状況もある。
○特定相談支援事業所と共に病院家族会や高齢者分野での学習会等において、相談支援事業所の役割と機能を紹介したり、地域の民生委員や町会長とのグループワークに取組み、相談窓口として周知に取組んだ。

III 令和6年度実績及び自己評価、並びに前年度設定した活動目標に関する全体評価

【令和6年度活動目標】

①引き続き、新規相談者や継続相談者、関係機関からの相談にスムーズに、またきちんと対応・支援が出来る様、スキルアップに取り組みたい。

②地域の課題や困難事例等について、特定相談支援事業所や関係機関と共に協力して対応していく事が出来るような体制づくりに取り組みたい。

①医療機関や地域包括支援センター、若者サポートステーション等から、高齢者と障がい者が共に暮らす世帯や複数の障がい者がいる世帯、長年医療機関やサービスにも繋がっていない方への相談を頂く事が多かった。

相談があった場合は訪問や面談をし課題の把握に努め、関係機関や地域の民生委員等と連携しながら必要な支援を検討した。速やかな課題の整理や課題解決については、課題が複雑な場合が多く、支援がスムーズに進まない事もあった。しかしすぐに支援に結び付かない場合でも、必要を感じたら相談して頂けるよう役割や機能を伝え、時々連絡や訪問をし、関係づくりをするよう心掛けた。

②圏域会議の中で、社会資源についての情報共有や不足しているサービスについて出し合う機会を複数回設けた。地域課題についての課題整理や社会資源の改善、新たな創出についての協議や具体的な提案を行つ機会については、今後も定期的に取り組んで行く必要を感じている。

困難事例について、専門機関や関係機関との連携を心掛けているが、本人を支えるチーム形成が十分に出来ない事がある。

IV 自己評価に基づく改善点と改善方法について

①引き続き、対象者の困りごとに対応しながら速やかに課題整理や解決に向けた支援を進めて行けるよう、まずはしっかりとアセスメントを行う。その上で単独では困難な事も多い為、関係機関との横断的な連携が出来るよう、必要に応じてケース会議を開催し、協議の上支援方針を立て取り組んで行く。ケーススタディの積み重ねを大事にする。

②地域課題については、圏域会議等を活用し、各相談支援事業所が事例を通して感じる、地域に不足しているサービスや制度等を検証する機会を作る。その際に、社会資源の改善策や地域特有のインフォーマルな社会資源の開拓への検討についても、行政や関係機関と共に取り組んでいく。

地域での利用者支援に向けて顔の見える関係性を形成していく為、地域包括支援センターで開催する地域ケア会議や医療機関、関係機関で開催されるケース会議等に積極的に参加する。

V 令和7年度の活動目標

①必要に応じ個別支援計画を作成し、希望する生活がイメージできるよう主体性を尊重し支援する。

②ケースを通して、専門機関や関係機関、特定相談支援事業所と、横断的な連携を強めて行けるよう取り組む。

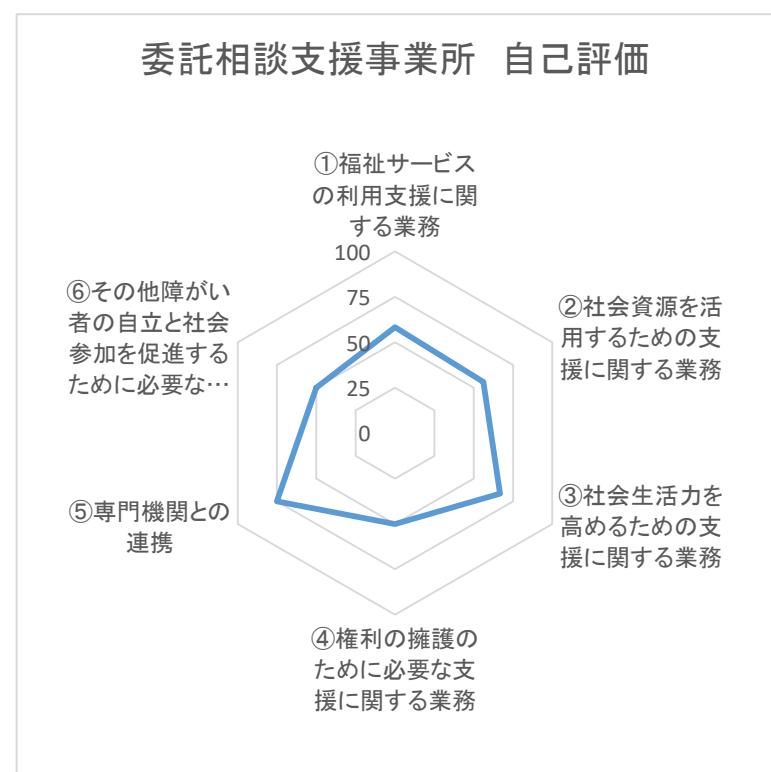
令和6年度 青森市障害者相談支援事業 活動報告

事業所名: 地域活動支援センターすばる

I 令和6年度実績

①相談件数									
訪問	来所	同行	電話	電子メール	FAX	個別支援会議	関係機関	その他	計
118	145	56	1,471	7	0	10	333	89	2,229
②支援内容									
福祉サービスの利用等に関する支援	371	金銭管理	123						
障がいや病状の理解に関する支援	5	書類の書き方の説明	0						
服薬管理	0	代筆	0						
受診援助	11	その他の生活技術に関する支援	216						
健康管理	0	就労に関する支援	1						
その他の生活と医療に関する支援	92	社会参加・余暇活動に関する支援	3						
不安の解消・情緒安定に関する支援	1,096	権利擁護に関する支援	5						
保育・教育に関する支援	0	虐待関係に関する支援	0						
家族関係・人間関係に関する支援	13	住宅関係に関する支援	33						
家計・経済に関する支援	250	その他	10						
③相談者数(実人員)									
うち、身体障がい	7	人							
うち、知的障がい	15	人							
うち、精神障がい	73	人							
うち、その他	49	人							

II 令和6年度の取り組みに対する自己評価



R6年度に機能強化として取り組んだ内容

【関係機関との連携】
家族内で問題を抱えているケースについて、地域包括支援センターや医療機関とも連携しながら対応した。

【訪問、連絡】
初回アセスメントでは可能な限り本人の居住先へ訪問し、面談を行った。福祉サービスにつながらないケースもあり、可能な限り生活状況確認などをを行うようにした。

【後方支援】
特定相談支援事業所が対応しているケースのうち、金銭管理や住宅退去、家族も含めた支援など課題が複雑化しているケース等においては、特定相談支援事業所と連携しながら対応している。

III 令和6年度実績及び自己評価、並びに前年度設定した活動目標に関する全体評価

【令和6年度活動目標】

①地域の潜在的ニーズのアウトリーチとニーズに対応する社会資源の更なる開拓。

②地活事業と連携し、ピアソポーター活動の強化。

①委託相談のアセスメントを行った際、対人関係がうまく築けなかったり、対人恐怖があり、生活する上で必要な買い物、行政や住宅関係（不動産など）の手続きなどができるはずであればいいかといった意見が聞かれました。周囲の理解を得られず、相談することに消極的になる方もおり、当事業所で同行して一緒に手続きを行うなどの支援を実施。出張販売のサービスなど利用できそうな社会資源はあるものの、開拓には至らなかつた。開拓に至らなかつた要因として、業務の煩雑さ（困難ケースへの対応や訪問・同行が多いなど労力がかかるケースも多々ある）や、マンパワー不足により余力がないことなどがあげられる。

②委託相談の中で「同じ病気の人と話せる場はないか？」「自分でだと病気や制度についてわからないことが多いから情報を得たい。そういう場はあるのか？」など、当事者同士の交流の場について問われる相談があつた。当事業所でもR5年12月にピアサークル「ぴあっと」を立ち上げており、ぴあっとについて情報提供をしている。実際に参加される方もおり、当事者活動を通してご本人様の孤独感を緩和し、地域とのかかわりの場の提供につながっている。

IV 自己評価に基づく改善点と改善方法について

潜在的ニーズは把握できたが、社会資源を開拓し、実際に利用につなげるといった具体的な動きが不十分だった。業務の煩雑さに関して、特定相談支援事業所や地活事業とも連携・協力し、ニーズに対して柔軟に対応できるよう取り組む。

マンパワー不足については法人にも働きかけていくが、改善には時間も要する。新たな社会資源の開拓について、現状の業務に支障がないよう、少しずつ余力を作りながら開拓していく。

V 令和7年度の活動目標

- ・本人・家族の意向が異なる委託相談への対応と支援の検討。
- ・地域の潜在的ニーズに対する社会資源の開拓を継続していく。

れいわねんど あおもりしちょうかいしゃうだんしえんじぎょう
令和6年度 青森市障害者相談支援事業
 活動報告

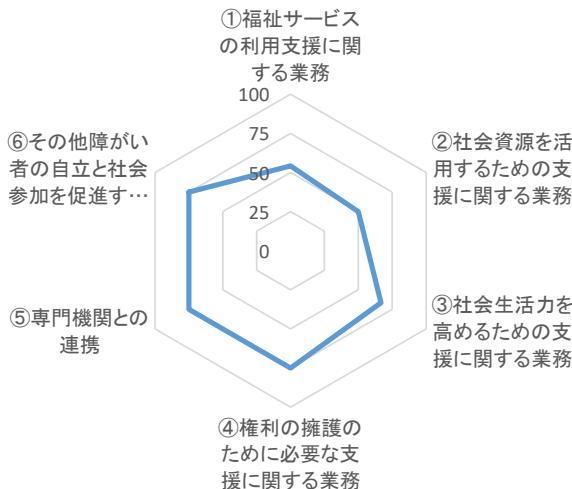
事業所名: 指定相談支援事業所ほたる

I 令和6年度実績

①相談件数									
ほうもん 訪問	らいしょ 来所	どうこう 同行	でんわ 電話	でんし 電子メール	FAX	こべつ しえん 個別支援会議	かんけいかん 関係機関	その他	けい 計
46	35	19	67	8	1	10	48	3	237
②支援内容									
ふくし 福祉サービスの利用等に関する支援	りょうどう 障がいや病状の理解に関する支援	かん しゃく 服薬管理	せいかいじょ 受診援助	けんこうかんり 健康管理	ほか その他の生活と医療に関する支援	ふあん 不安の解消・情緒安定に関する支援	ほいく 保育・教育に関する支援	かぞくかんけい 家族関係・人間関係に関する支援	かけい 家計・経済に関する支援
89	19	0	2	2	22	9	0	11	28
きんせんかんり 金銭管理	しょるい 書類の書き方の説明	だいひつ 代筆	ほか その他の生活技術に関する支援	しゃかいさんか 社会参加・余暇活動に関する支援	よかかつどう 権利擁護に関する支援	かん しゃく 虐待関係に関する支援	じゅうたくかんけい 住宅関係に関する支援	かん じゆうたくかんけい 住宅関係に関する支援	た その他
10	0	0	10	0	0	5	5	5	2
相談者数(実人員)									
48	10	6	24	8	人	人	人	人	人
しんたいじょう うち、身体障がい	ちてきじょう うち、知的障がい	せいしんじょう うち、精神障がい	た うち、その他						

II 令和6年度の取り組みに対する自己評価

委託相談支援事業所 自己評価



R6年度に機能強化として取り組んだ内容

【計画相談の調整】
 圏域内に相談支援事業所が少ないため、(4カ所: R6年度時点)、計画相談依頼を受けた場合は、基本的に断らずに対応。どうしても当事業所で対応ができない場合のみ、圏域内の相談支援事業所に連絡し、調整を行った。社会資源が少ないことは課題だが、計画相談に関しては、現時点で待機者はおらず、浪岡圏域内で対応ができる。

【圏域での連携】
 圏域内の相談支援事業所が少ないこともあり、定期的に開催している圏域連絡会議のなかでお互いのケースを相談し合える時間を設けているほか、他機関(包括や行政等)を交えての勉強会を開催するなど、地域全体で顔の見える関係作りを目指した。

III 令和6年度実績及び自己評価、並びに前年度設定した活動目標に関する全体評価

【令和6年度活動目標】

①地域の居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)との連携や障がいケースのバックアップ

②相談が少ない機関や分野の相談ケースを増やすようにする。そのために委託相談支援事業所の役割周知に努める。

【実績及び自己評価】

関係機関を通しての相談が多い反面、ご本人やご家族、地域住民等からの新規相談は少ない。また、高齢者と障がい者世帯に関する相談が増えており、親の施設入所や死去に伴い、生活支援や金銭管理の問題が発生することが多かった。内容等を問わず、持ち込まれた相談に対応しているが、ご本人が困難を感じておらず、サービス利用等につながらなかったケースや自宅訪問等に対して拒否的なため、課題整理が十分にできなかつたケースもあった。

【活動目標に関する全体評価】

①事務所内に地域包括支援センターが併設されているため、日々連携は図れしており、包括支援センターからの相談だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談も少しずつ増えてきている。また、高齢と障がい者世帯の相談が増えていることもあり、圏域会議に地域包括支援センターの職員を招き、地域共生社会をテーマとした勉強会及び事例検討会を実施。翌年度には地域のケアマネジャー向けに勉強会を開催する運びとなり、地域のケアマネとの連携強化に向けた活動はできたと思われる。

②昨年度までは児童分野の相談が少ない傾向があつたが、障がい児の計画件数が増えたことに伴い、相談も増加傾向にある。

【その他】

圏域内の相談支援事業所数が少ないため、必然的に他事業所の後方支援にあたる機会も少なくなる。浪岡地域の青森市浪岡庁舎のすぐ裏手に事務所があり、行政とも連携しやすい環境にあるため、特定としての新規相談件数は増えているが、当事業所で計画相談を担当しているケースに委託としてバックアップしたものは、実績件数には計上されないため、相談件数が増えない要因とも思われる。

IV 自己評価に基づく改善点と改善方法について

・支援計画作成や支援会議開催の基準が不明確なこともあります。支援計画の作成等に至らないケースが多い。他の委託支援事業所や基幹相談支援センターに確認をしながら、基準に沿って効果的な支援ができるよう

にする。

・浪岡圏域内の関係機関とは日頃から連携が図れているため、委託の機能や役割をある程度理解いただけているが、地域住民に対しては周知不足。地域の行事でPR活動はしているが、直接相談を受けることが少ないため、不十分だったと感じる。社会福祉協議会を通し、地域の町内会や民生委員の方にパンフレットを配布していくほか、直接民生委員の定例会等に足を運んで、委託相談の役割を説明させていただく機会をつくるようにする。

・浪岡圏域の社会資源が限られていることに加え、青森市ではなく、近隣市町村が生活圏域となっている方が多く、社会資源不足や利用のしづらさが課題として取り上げられることが多い。障がい分野だけの問題はなくため、地域全体で検討していく必要がある。地域包括支援センターや社会福祉協議会と共に検討できる環境にあるため、積極的に意見交換等を行っていく。

V 令和7年度の活動目標

・支援計画作成対象者の基準を定め、必要がある方には計画を作成したうえで支援を行う。

・周知活動方法を再検討し、新規相談ケースを増やす。

・他機関とも協力しながら、現状の社会資源等を再整理し、地域に必要な資源の検証を行う。